

### 第三者評価結果

事業所名：それいゆ保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a

<コメント>

・全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成されており、各年齢の保育目標に沿って養護・教育・食育それぞれの保育内容が示されている。

・全体的な計画を基に、各クラスにおいて年間指導計画を作成し、期ごとのねらいに沿って毎月の計画につなげている。コロナ禍となり中止していた子育て支援事業は、今年度より2か月に1回の頻度で再開することができ、地域社会との連携を大切にし、子ども達が地域や近隣の保育施設等と積極的に交流できるように努めている。園児が卒園後スムーズに幼児保育施設に移行することができるよう、地域の保育園との連携に力を入れている。また、子育て家庭に向けた育児講座、遊ぼう会なども行っている。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	b

<コメント>

・安全管理点検表を使用し、各クラスの当番職員が保育園内外の点検と確認を毎日実施し記録している。玩具や用具、寝具の衛生管理にも努めている。保育室は年齢に応じて子どもが安全に過ごせるように家具や遊具の素材・配置等に工夫をしており、子どもの発達や活動内容によって設定の変更等も行うようにしている。

・2歳児室では、ままごとコーナーやソファで絵本を読んだりできるような設定や、室内用の遊具で体を動かせるように広く設定するなどの工夫をしている。ソレイユ川崎の屋上も利用可能であるが、コロナ禍においては入居者との接触を避け、曜日を決めて使用している。少人数の保育であるが、コロナ禍においては、食事や睡眠時のソーシャルディスタンスに配慮をしている。

・保育室によっては湿度管理が難しい場合もあるため、現在、対応を検討中である。

<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

・子どもの年齢や発達に応じた保育計画を立て、その情緒の安定や積極的に取り組む意欲を育むことができるように、子どもの欲求を受け止め、子どもの気持ちに沿って丁寧に、笑顔と真心をもって保育にあたるように努めている。子どもにわかりやすい言葉づかいで、やさしく話しかけるようにしており、子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮をしている。

・重度の障がいや医療的ケアが必要な園児の受け入れも行って、クラスで一緒に過ごすことで、お互いを認め合い、ともに成長することができるように援助している。毎日の受け入れ時には、保護者の方より子どもについての情報をよく聞くように努め、前日あまり睡眠がとれていないなどの情報があれば体調を考慮し、できる限り子どもの生活リズムに配慮をしながら保育を行うようにしている。

<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

・食事、着替え、睡眠、排泄などの基本的な生活習慣を子どもが身につけることができるように、年齢だけでなく一人ひとりの発達に合わせた援助を行っている。0歳児クラスでは、室温や湿度に留意して快適に過ごせるように努めており、保育士が丁寧に関わり安定した生活リズムをつくるように配慮をしている。

・入園時より、ロッカーやテーブル、椅子などに一人ひとりのマークを示しており、自分の場所を覚えたり、持ち物がわかるように工夫をしている。食事や着替えにおいては、自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、保育士と一緒に、できたことをほめて意欲が持てるように援助している。排泄では、保護者と連携をとりながら取り組んでおり、子どもの発達に応じて無理強いすることなく段階を追って進めるようにしている。

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達の特長や過程、個々の状況や「趣味」「関心」を踏まえ、子どもが自ら関わりたくなるような環境を構成するようにしている。保育士が「これで遊ぼう」と遊びを決めるのではなく、いくつかの遊びを用意し、自分で選択できるように援助している。また、「やってみよう」とする気持ちを受け止め、子どもがやりたいことに安心して挑戦できるように働きかけ、やり遂げた満足や達成感を共有している。</li> <li>・広い敷地内は自然に恵まれた環境であり、季節の草花や昆虫を見る機会も多くあり、日常的に自然に親しむことができている。また、敷地内でも歩く場所や手をつなぐなどのルールを伝え、安全に遊ぶことができるように援助している。</li> <li>・季節の歌や手遊び、ダンス、製作などの表現活動も多く取り入れ、絵本は毎月定期購読して家庭と同じ本を読み、言葉に親しむことができるように工夫している。</li> <li>・地域とのかかわりについては、子育て支援事業を今年度より再開しているが、コロナ禍において制限されていることもあり、今後の課題としている。</li> </ul>	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆったりと落ち着いた環境の中で家庭と連携を取りながら、一人ひとりの生活リズムを大切に保育に努めている。一人ひとりの発達が著しく、特定の大人と安定した関係を持つことが必要な時期でもある為、日々変化していく成長を見逃さず「今この子にとって何をしたら良いか」、「必要なことは何か」という視点を常に持ち、適切な援助をタイミング良く行っていくようにしている。</li> <li>・常に子ども達の目線に立ち、「やりたい」という意欲や好奇心を引き出し、探索活動などが十分にできる環境や安全に配慮し、月齢や一人ひとりの興味に合わせて、物足りなさのないように手作り玩具も多く準備している。職員が発達の過程に見通しを持ち、保護者とコミュニケーションを取りながら、小さな成長や発見をともに喜び、笑い合い困った時には相談し合える関係を築けるように取り組んでいる。</li> </ul>	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、保育室ではクラスごとに活動する時間を多くし、散歩では一緒に遊べるように配慮をしている。歩行や運動機能の発達を見守り、興味関心の芽生えを大切にしながら保育を進め、自立したい気持ちを大切にしながら、保育者が仲立ちとなり、遊びや友達との関係を広げている。</li> <li>・1歳児は個人差が大きい為、保育士は一人ひとりの子どもの成長の様子や気持ちを受け止め、丁寧な援助に努めている。2歳児は、「じぶんです」という自己主張を大切にするとともに、「手伝って」という甘えにも十分こたえ励ましながら意欲を育てている。行動範囲が広がり、語彙も豊かになり、友達への関心が高まる時でもあるので、保育士が仲立ちして友達と一緒に「ごっこ遊び」が楽しめるような環境の工夫にも力を入れている。各年齢において保護者との連絡を密に取り、信頼関係を大切にして子どもの成長を園と家庭とで共有できるように取り組んでいる。</li> </ul>	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>該当なし</p>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度の障害や医療的ケアが必要な子どもを可能な限り受け入れ、どの子どもと一緒に過ごすことで、お互いの存在を認め合うことを目的に統合保育に取り組んでいる。担当を決め、個別配慮表や個別配慮園児日誌を作成しながら無理のない保育をすすめており、看護師も介助を行っている。</li> <li>・障がい児や医療的ケアが必要な障がい児にも保育士を配置させる為、国が定める保育士の配置基準を上回る人数で、日々保育を行っている。その為、障がい児の様子をしっかりと見ることができ、異変にもすぐ気が付くことができる為、それにより事故も防ぐことができている。また、病名や障がいについて説明の機会があり、ドクターから話を聞いて職員の理解を深めることができるようにしている。</li> <li>・クラスでは、保育士が仲立ちとなり友達同士の関わりを楽しめるようになってきており、ゆっくりではあるが少しずつ成長が見られていることが報告されている。</li> </ul>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・子どもの在園時間を考慮し、保育内容や環境について配慮を行っており、体調面には特に気を配るようにしている。夕方はできる限り長くクラスで過ごし、人数に応じて合同保育を行うようにしている。人数が少なくなることで、さびしさを感じないように、抱っこをしたり好きな遊びに集中して取り組めるようにしたり、一人ひとりに丁寧に関わるように努めている。コロナ禍以前は、朝夕に子どもの人数が少ない場合は合同保育にしたり、行事以外でも異年齢で過ごす時間を多く持つようにしていたが、現状はクラスごとの保育が大半となっている。</p> <p>・子どもの送迎時には、連絡帳でのやり取りだけでなく、口頭でも子どもの様子を伝えるようにしており、情報の共有に取り組んでいる。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>該当なし</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・主な感染症の症状等の一覧と感染症発生時の対応マニュアルを各保育室へ掲示し、子どもの健康管理に取り組んでいる。子どもの健康に関する情報は、朝礼やクラス、全体の臨時及び定例職員会議で時間を設けて共有できるようにしている。保護者に対しては毎月の「園だより」内での「保健について」でお知らせすると共に、新型コロナウイルス感染症に伴う発熱や濃厚接触者の特定等について文書で配布をし伝えている。</p> <p>・看護師は、子ども一人ひとりの毎日の健康状態を確認したり、医療的ケアが必要な園児の健康管理、食事等の介助と連絡ノートの記入を行っている。年間計画に基づき、2歳児を中心に歯磨き指導、咳エチケット、手洗い指導などの健康指導を行っているほか、職員に向けては、医療的ケアについて、嘔吐処理対応、救急対応等の研修を実施している。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・月2回の健康診査と年1回の歯科健診では、クラス担当保育士が付き添い介助を行い、直接情報を得ることができており、保育に反映できるようにしている。健康カードへの記録は、保健担当保育士が行っている。保護者への結果報告は、健康カードの配布によって伝えられており、受診や再検査等の連絡事項がある場合には、降園時に保護者に口頭で伝えるなど個別に対応している。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・アレルギー疾患・慢性疾患等の対応については、指示書と共に看護師からの情報も随時受けて保育を行っている。保育士2名が医療的ケア「認定特定行為業務従事者認定」を受け、介助を行っている。アレルギー対応食は日々の給食数依頼表に色を変えて明記している。医師の指示によるアレルギー対応食は、他の園児へ、該当児には食べてはいけない食べ物があるため混同しないように、トレイで対応することを伝えて、個別トレイで食事対応をしている。</p> <p>・緊急時の対応については、適切な対応が可能となるように全体での行動表を作成して、各クラスに配布している。また、看護師による園内研修を実施し、職員への周知に取り組んでいる。</p>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境を整え、保育士や友達と関わり合いながら、楽しく一緒に食事をするを大切にしており、それぞれの発達段階における、子どもの「自分で」を大切に、「食べたい」という意欲を育むよう援助している。</li> <li>・離乳食は、子どもが自分で食べようとする意志を大切に、子どもが口を開けるのを待ち、自分から食べ物を取り込む練習になるように行っている。また、「おいしいね」と口を動かして見せたりして咀嚼を促し、水分も最初はスプーンから飲むことを始め、慣れてきたらコップ飲みを保育士が手を添えて援助している。</li> <li>・2歳児を中心に夏野菜や冬野菜の栽培活動を行っており、収穫した野菜の型抜きをして、栄養士がカレー作りをする様子を近くで見るなどの食育活動を実施している。</li> </ul>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市の献立（施設入所用）をもとに、栄養士が園児用に献立を作成している。季節の野菜や果物を取り入れ、季節の行事食や誕生日会のケーキなどの提供もあり、子どもが楽しく食べることができるように工夫している。離乳食についても栄養士が保護者と食材表をやり取りしながら月齢に合わせて進めている。</li> <li>・コロナ禍においては、栄養士が食事の様子を見る機会は少ないが、おやつ時間は確認するようにしており、喫食状況についてはクラスの喫食状況書や給食会議において把握し、献立の作成に生かすように努めている。食育活動では、野菜に触れたり、皮むきをしたり、ホットケーキ作りなど、コロナ禍においても工夫をしながら、子どもが食材を身近に感じ食に対する興味を持つことができるよう取り組んでいる。また、年齢や発達に合わせて、食具の持ち方や食べ方、姿勢など食事のマナーについても伝えるようにしている。</li> </ul>	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・保育方針、全体の計画の内容、日々の保育の意図などについては、入所時、送迎時の対話、連絡帳や行事、懇談会などの機会を設け、保護者にわかりやすく伝えるようにしている。連絡帳では、家庭との日常的な情報交換を詳細にやり取りしており、送迎時には口頭で担任がその日の子どもの姿を伝えている。</p> <p>・保護者が、不安にならないように、保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設け、質問もしやすい環境を整えるようにしている。毎月の園だよりでは月の予定や行事の写真、取り組みの様子を伝え、健康や感染症について、食育についてなどをわかりやすく記載している。コロナ禍においては、送迎は玄関までとしているため、子どもの作品等は玄関に掲示して保護者に見てもらえるようにしている。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・日々のコミュニケーション（送迎時、連絡帳など）により保護者との信頼関係を築くことができるように努めており、保護者の就労などの個々の事情に配慮して、それぞれの保護者の思いや、要望、悩みなどに対して、相談に応じるよう面談の機会を設けている。また、保護者から面談の要望があれば、迅速に対応し、面談を実施している。</p> <p>・今年度の保育参加では感染症拡大防止対策を講じ、2日間に分けて短い時間で行われ、子どもと一緒に散歩に出かけ、給食を食べて一緒に過ごす時間を設けることができている。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・登園時は、視診をするとともに家庭での怪我があるかどうかを保護者に確認するようにしており、虐待等の早期発見と予防に取り組んでいる。また、着替えの際にも視診を行っている。身体的だけでなく、子どもの精神面にも気を配り、小さな変化を見逃さないように努めている。</p> <p>・保護者の「子育てについて」や「子どもの発達状況」など、不安に思っていることを話しやすいように、園での子どもの様子や、今日はどんなことをしたのかななどを伝え、コミュニケーションを図るようにしている。口頭では、伝えにくい場合もあるため、毎日記入する連絡帳なども上手く活用できるように工夫している。</p> <p>・職員はソレイユ川崎主催の研修への参加やグループワーク、川崎市の研修への参加などによって、理解を深め意識を高めるようにしている。</p>	

## A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・毎月1回、クラスミーティング、職員会議（常勤）を行い、会議に参加していない非常勤用には後日必ず伝達用の会議の時間を設け、全体共有に取り組んでいる。また、月1回30分程度、その日のテーマについて意見交換を行う場を設けており、自由に話すことができ、職員同士のコミュニケーションを図ることに役立っている。</p> <p>・新しく入社した新人の保育士には、月に1度振り返りの時間を設け、独自の振り返りシートを用いて反省点や改善点、目標を記入してもらい、それを用いて面談を行うことで、保育士の質の向上やモチベーションの向上に努めている。また、保育士全員が業務遂行到達度チェックシートを記入している。</p>	